

建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2014年(平成26年)8月25日(月曜日)

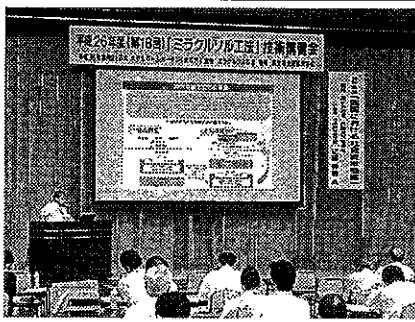
(第三種郵便物認可)

ミラクルソル協

工法の有効性説明

高松市で技術講習会

ミラクルソル協会(原裕理事長)は21日、高松市のホテルパールガーデンで「2014年度技術講習会」を開いた。写真。環境保護・保安や安



全性に優れ、合理的な設計施工が可能な廃ガラス再資源化工法「ミラクルソル工法」の有効性や今後の可能性を説明した。官公庁や建設コンサルタント、ゼネコンなどから約120人が参加し、熱心に聞き入った。廃棄物資源循環学会が後援した。CPDS(継続学習制度)の対象となる。

当日は四国地方整備局企画部の近藤秀樹技術調整管理官が「四国における社会資本整備」を演題に同局が進める南海トラフ巨大地震対策やインフラの長寿命化対策を紹介するとともに、改正公共工物品質確保促進法(品確法)の背景や狙いを説明した。

原理事長は「ガラス廃材を再資源化した多目的環境材料ミラクルソルの活用技術」と題して、河川やダムの水質改善、古民家の調湿材など幅広くミラクルソル工法が使用されている事例を紹介した。

同協会顧問で佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの荒木宏之センター長・教授も「進化するミラクルソル環境分野への適用」をテーマに

講演し、汚水や放射性物質などの浄化に有効であることを強調した。